

授業科目名 (英文表記)	世界農業遺産 (Globally Important Agricultural Heritage Systems)		
単位数	2 (学部生のみ)	授業形態	講義・演習
担当教員	養父 志乃夫、ゲスト講師		
開講	南紀熊野サテライト 他	区分	学部開放科目
実施日・時間	① 12月7日(土) 13:00～17:00	③ 1月25日(土) 9:30～17:00	
	② 12月14日(土) 9:30～17:00	④ 2月1日(土) 9:00～16:00	

#### 【授業のねらい・概要】

みなべ・田辺の梅システムが世界農業遺産に認定されたこともふまえ、世界農業遺産とは何か、当地の農業遺産のシステムと生態系の価値について、一般的な生態学の知見も交えながら、座学と現地生態系演習により習得する。地元世界農業遺産協議会の全面的な支援のもと、将来的な農業遺産のシステムを説明・活用できる人材を育成する。

本講義は「みなべ・田辺地域世界農業遺産推進協議会」による寄附講座である。

#### 【授業計画】 ※記載の内容は変更することもあります。

##### 第1回 (会場：田辺市新庄町ビッグ・ユウ)

1. 世界農業遺産と日本 (ゲスト講師) ビッグ・ユウ
2. みなべ田辺の梅システム (養父志乃夫) ビッグ・ユウ
3. 梅システムとニホンミツバチ (ゲスト講師 高橋純一氏) ビッグ・ユウ

##### 第2回 (現地踏査：みなべ町うめ振興館、他)

4. 現地踏査 (養父志乃夫・ゲスト講師 紀州田辺観梅協会：梅システムマイスター) 梅林と薪炭林
5. 梅システムによって生産される料理の評価 (ゲスト講師 みなべ町梅料理研究会：岩本直子氏、他) みなべ町西本庄
6. 梅システムと行政 (ゲスト講師 原康雄氏) みなべ町うめ振興館
7. 梅システムの歴史 (ゲスト講師 本講座既受講生 梅システムマイスター) みなべ町うめ振興館

##### 第3回 (演習先：みなべ町清川地区)

8. 梅の植物生理と育種 (ゲスト講師 野畑明弘氏)
9. 役場・協議会担当者による申請プロセス、合意形成、今後の展望の説明 (ゲスト講師 中早良太氏) 紀州備長炭振興館
10. 備長炭生産調査 (ゲスト講師 原正昭氏) 炭窯
11. 薪炭林持続性調査 (ゲスト講師 松本貢氏) 紀州備長炭振興館

##### 第4回 (演習先：南部梅林、会場：みなべ町うめ振興館)

12. 観梅状況・ランドスケープ調査 (養父・ゲスト講師 本講座既受講生 梅システムマイスター) 南部梅林
13. 班別作業 みなべ町うめ振興館
14. まとめと発表 みなべ町うめ振興館
15. 梅システムの今後の展望、総括 みなべ町うめ振興館

#### 【到達目標】

世界農業遺産の概念と梅システムの特徴について、社会生態学的観点から理解を深め、他者に対し現地で科学的・論理的に説明できるようになること。

#### 【教科書】

特に定めません。必要に応じて資料を配布します。

#### 【参考書】

【梅システム申請書】など、以下よりダウンロード可能。必ず事前に確認・予習しておくこと。

<https://www.giahs-minabetanabe.jp/> 【関連報文】 <https://doi.org/10.2750/arp.35.379>

#### 【履修上の注意・メッセージ】

多くの現場の方々を支えられたカリキュラムであり、受講者は極力全日程参加すること。

#### 【履修する上で必要な事項】

受身にならず、積極的に議論に参加し、自己成長を希求すること。

みなべ田辺地域に関心を持ち、かつ客観的に梅システムを世界・日本の農業システムの中に位置づける熱意を有すること。

#### 【受講を推奨する関連科目】

南紀熊野サテライトにおける紀伊半島・地域再生関連科目 ランドスケープ・エコロジー、緑地環境学など

#### 【授業時間外学修についての指示】

本授業の授業計画に沿って、準備学習と復習を行ってください。さらに、授業内容に関連する課題に関する調査・考察を含めて、毎回の授業ごとに自主的学習を求めます。授業時間の約2倍の授業時間外学修が必要です。

#### 【その他連絡事項】

PCやタブレットがあれば各自持参すること(必須ではない)

南紀熊野サテライト(和歌山県田辺市、ビッグ・ユウ)現地集合(時間厳守、南紀熊野サテライト往復の交通費は自己負担)

※行程の詳細については、都度ご連絡いたします。